

平成30年度

第29回 浜松市民

レクリエーション・スポーツ大会

種目別競技規則

※ この競技規則は、決勝大会の競技規則を基本に作成しています。区大会等ではそれぞれの実情にあわせて、大会の目的に沿うかたちでの運用をお願いします。

P1～P3 『ファミリーバドミントン』

P4～P6 『スーパードッジ』

P7～P13 『ビーチボール』

浜松アリーナ

ファミリーバドミントン競技規則 HAMAMATSU (H30年度)

1. コート

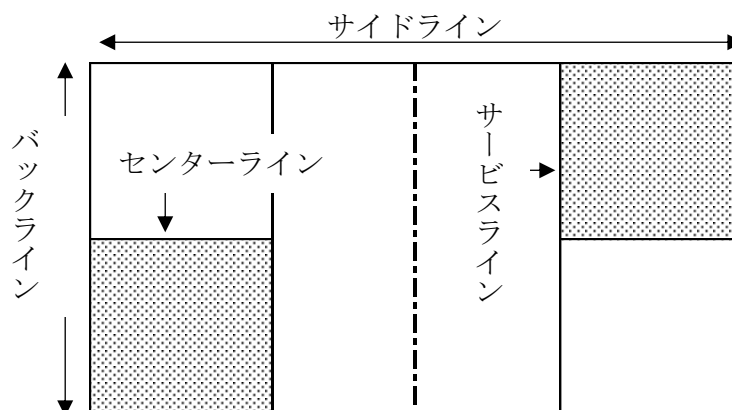
① コートサイズ

サイドライン	13.40m
バックライン	6.10m
センターライン	4.72m

② ネット

ネットの高さ	1.55m
--------	-------

バドミントン用ネットを使用



2. 用具 (日本ファミリーバドミントン協会検定品)

日本ファミリーバドミントン協会検定品のシャトルおよびラケットを使用する。

3. チーム構成

- ・選手数は8名以内、プレイヤーは前衛1名 (●) 後衛2名 (○) の3名がコートに入る。
- ・第1セットに出場したプレイヤーが、第2セットに出場することはできない。
- ・男性と女性は、第1セットが男性1名・女性2名で、第2セットが男性2名・女性1名の出場割合とする。

4. 競技

① 勝敗の決定

- ・1試合 (ゲーム) は、15点先取のラリーポイント制、ジュースなしで行う。
- ・15点を獲得したチームをセットの勝者とし、2セット獲得したチームを試合の勝者とする。
- ・予選リーグについて、両チームが1セットずつ獲得した場合は、引き分けとする。
- ・決勝トーナメント・交流戦について、両チーム1セットずつ獲得した場合、第3セットをタイブレーク方式で実施する。その場合、スコアを10対10から開始とする。

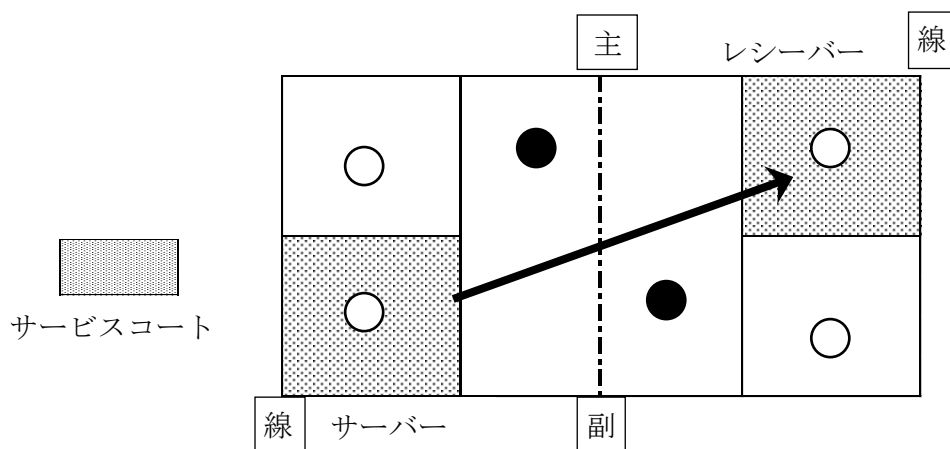
※タイブレークになった場合のメンバー構成は、第2セットの最終メンバーを引き継ぐ。

② サービス

- ・サーバーは、前足の裏全体またはその一部が床面に着いた状態でサービスしなければならない。
- ・サービス時は、「シャトル」「ラケットのヘッド」「ストリング・エリア」は、サーバーのウエストライン及び手の肘・手首より完全に下になければならない。
- ・サーバーは、ローテーションが後衛で右側のプレイヤーで、サービスコート内でサービスを行う。
- ・サーバーは、サービスコートを取り囲むラインを踏んでサービスしてはならない。
- ・サーバーは、主審の開始のシグナルにより、フォアハンドでサービスを行う。

※サービスの取扱いは日本協会「H24改正」並びに「H27申合せ」と同様で判断します

- ・サービスは、ネットの上をとおりレシーバーのサービスコート内に入らなければならない。
- ・ボール部分がオンラインのサービスは、インとする。
- ・シャトルがネット又はポストに触れた場合は、触れていないサービスと同様の判定とする。



③ レシーバー

- ・レシーバーが、エリア内で明らかにアウトとなるサービスをレシーブした場合は、インプレーとなる。

④ ポジション

- ・前衛のプレイヤーは自陣内でサービスラインを超えてプレーすることができる。
- ・インプレー中の後衛のプレイヤーは、いかなる場合もサービスラインを踏むか、または踏み越えてはならない。サイドラインの外側サービスラインの仮想延長線も同様である。

⑤ ローテーション

- ・サービスの瞬間、すべての選手はそれぞれ正規のローテーションのポジションにいないといけない。
- ・相手チームからサーブ権が移ってきたときに、自チーム内で時計回りに1つローテーションを入れかえる。
- ・正規のローテーションでない場合は、審判が正しいものにする。ただし、スコアの訂正は認められない。

⑥ スマッシュ

- ・シャトルをストロークした瞬間、シャトルが打点よりただちに下を向くものすべてを「スマッシュ」という。
- ・スマッシュは、後衛の選手に限ってストロークできるが、レシーバーの1打目はこの限りではない。

⑦ フォルト

- ・オーバーネット・・・ラケットまたは身体が、ネットの上や下を越えて相手のコートを侵したとき
- ・タッチネット・・・ラケット・身体または着衣がネットに触れたとき

- ・ドリブル・・・同じプレーヤーが2回以上連続してシャトルを打ったとき
- ・ホールディング・・・シャトルをラケットに乗せて運んだとき
- ・ラインクロス・・・前衛がネット下ライン、後衛がサービスラインを踏み、または踏み越えたとき。ラケットがサービスラインより前のコートに面に触れたとき。
- ※ 前衛のラケットや身体（着衣を含む）に触れるような、単なる接触はフォルトになりません。ただし、前衛がサービスラインより前で、後衛がサービスラインを踏み越えるのを阻止するために支えるなど、故意による接触はフォルト。前衛が後衛ゾーンにいた場合は問題なし。
- ※ 後衛選手が前衛エリアにラケットを落とした場合、前衛の選手がラケットを床に滑らせて後衛に渡すことができる。手渡しや後衛選手が拾った場合はラインクロスとなる。
- ・オーバータイムズ・・・1回の攻撃中、同チームの選手がシャトルを3回以上打ったとき。
- ・スマッシュ・・・前衛が、シャトルの打点がただちに下を向くストロークをしたとき。
- ・ファール・・・シャトルがラケット以外に当たったとき。（フレームやグリップはOK）
相手コート内にラケット又は身体の一部が入ったとき。
ラケット以外でストロークをしたとき。

⑧ レット

- ・「レット」はプレーを停止させるため、主審によってコールされる。
- ・「レット」となった場合は、その前のサービス以後のプレーは無効とし、そのサーバーが再びサービスをする。 ※シャトルが破損した場合も同じ。

5. 競技の進行

- ① 試合前にメンバー票を提出する。
- ② 審判は審判台付近に、両チームはネットをはさんで整列する。
- ③ 挨拶後、ジャンケンをして勝った方が「サービス」をとるか「コート」をとるか決める。
- ④ 主審の合図で試合開始する。原則としてセット中での交代は認めない。
- ⑤ チェンジコートはセットが終わったときに行い、2セット目は、前のセットの勝者がサービスをする。
- ⑥ 主審は常にシャトルの行方を追う。
副審は、サーバーの足元、ネットタッチ、ラインクロス等を確認する。
線審は、主にバックラインと、サービス時のセンターラインを確認する。（サービスボールの IN or OUT の確認）

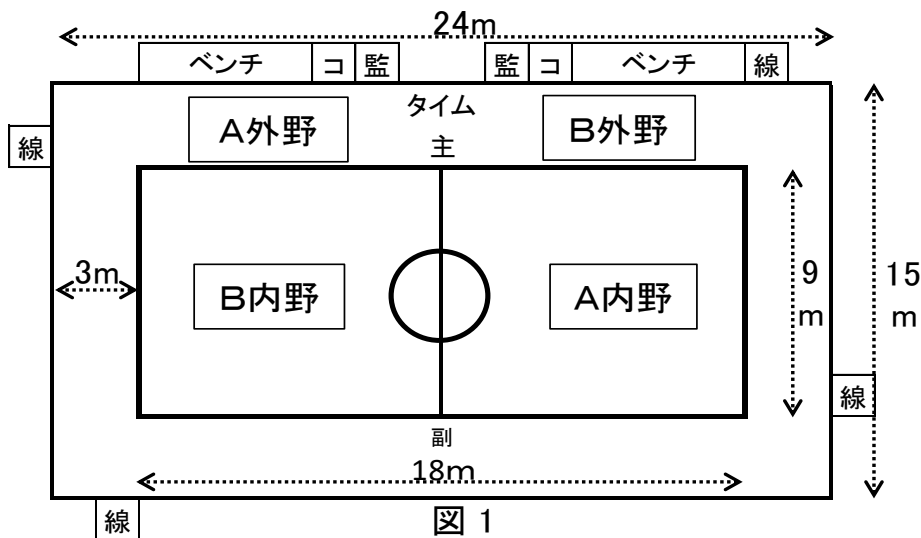
6. その他

上記以外の競技規則は、日本ファミリーバドミントン協会『ファミリーバドミントンルールブック』に準ずる。

スーパードッジ競技規則 HAMAMATSU (H30 年度)

1. 競技場、用具

- ① スーパードッジの試合は、**図 1** で示している大きさのコートで行われる。
- ② ボールはケンコウソフトィ 210 を使用する。
- ③ 頭にハチマキを巻く。首に巻くのは禁止。(主催者で準備)
- ④ 監督、コーチはゼッケンをつける。(大会要項 P 4 参照)



2. チーム

チームの構成及び交替競技者

- ・チームは監督、コーチ各 1 名と選手 (小学生) 14 名を登録できる。(交替不可)
- ・試合は小学生 10 名が常時コート内でプレイする。
- ・内野 7 名、外野 3 名を先発基本フォーメーションとする。
- ・選手の交替は 1 セット 1 回 2 人まで、ボールの権利がある時に行える。(但し、ボールデッドの時)
- ・交替した選手は前の選手の権利を受け継ぐ。

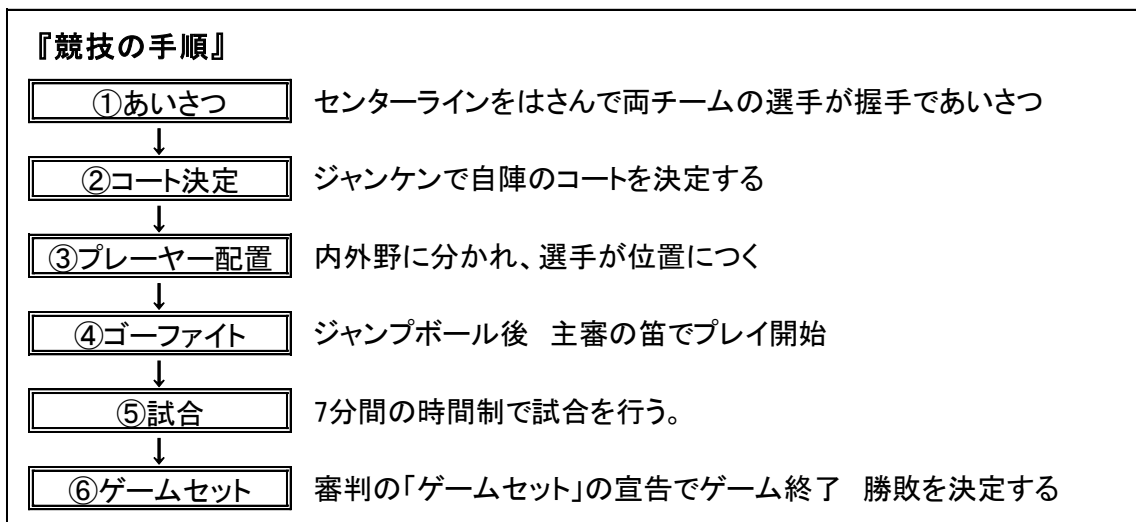
3. 競技

① ゲーム

- ・競技はチーム対抗形式で行う。
- ・競技はすべて審判の笛によって始まり、審判の笛によって終わる。
- ・試合は時間制。競技時間は 7 分間とする。(作戦タイム以外はランニングタイム)
- ・センターマークでのジャンプボールによって試合開始。そのボールをプレーヤーが捕球し主審が競技者の準備が整ったことを確認後、主審の笛の合図で競技スタートとする。

※タイムキーパーは試合時間の計測を開始、また、試合終了 10 秒前を主審に伝える。

- ・プレーの再開は、すべて内野ボールからとする。



② 勝敗の決定

- ・ 時間内に相手チームの選手全員をヒットすれば、そのチームの勝利。
(これをノックアウトゲームと呼ぶ)
- ・ 全員ヒットできなかつた場合、ヒットされていない選手の多いチームが勝ち。
(ハチマキの数を数える)
- ・ ヒットされていない選手の数が同じ場合は、予選リーグでは、引き分けとする。
- ・ 決勝トーナメントで、ヒット数が同じ場合は、1分刻みの延長戦を行い、勝敗を決定する。
延長戦以降は、いったんスタート時の人数に戻しジャンプボールで競技を開始する。

③ 作戦タイム

- ・ 1セットに1回だけ監督が審判に要求することができる。(30秒以内)

④ ヒットについて

- ・ 「ヒット」とは相手選手の身体に当てたボールが床に着いた状況をさす。(当てられた選手の味方選手も含める) また、ボールを当てる場所は首から下なら体のどの部分でもよい。
- ・ 捕球とは、一時的ではなく、完全にボールをキャッチした状態をいう。
- ・ ヒットの対象になるのは、内野の選手のみ。ヒットされた内野手は、ハチマキをとり、素早く外野へ出る
- ・ 試合スタート時の外野3選手はヒットされた内野選手と交代しなければならない。
- ・ ワンバウンドで当たった場合はヒットにならない。

《ヒット・ダブルヒット》

- ・ 捕球できず、当てられてボールが床についた場合、ヒット。
- ・ 1人目が当てられた後、味方内野がコート内におり、かつノーバウンドで捕球した場合は、2人ともセーフ。
- ・ 1人目が当てられた後、捕球しようとした味方内野がコート内におり、かつノーバウンドでキャッチできなかった場合(2人目も当たってしまった場合)は、2人ともヒット。
- ・ 1人目が当てられた後、味方外野または相手チームの外野や内野が、ノーバウンドで

捕球した場合、1人目はヒット。(2人目が味方内野ではないので無効)

- ・ 1人目が当てられた後、捕球しようとした味方内野が、ラインクロスしてノーバウンドでキャッチした場合1人目はヒット、2人目はセーフ。…☆
 - ・ 1人目が当てられた後、捕球しようとした味方内野が、ラインクロスでボールに触れてキャッチできなかった場合(2人目も当たってしまった場合)は、2人ともヒット。…☆
- ※ ☆の場合、ヒットされたチームの内野ボールで再開する。

⑤ 試合中の反則

- ・ 味方同士でのパス回しは連続4回までとし、5回目の投球はアタックでなければならない。それ以上ボールをパスすると、ボールの権利は相手チームへと移る。
- ・ プレー中、ラインを踏むか踏み超えた場合はラインクロスとなり、相手の内野ボールとなる。投球動作後にラインを踏むか踏み超えた場合もラインクロスとなり、相手をヒットしてもそのプレーは無効とする。
- ・ 内野選手がボールを当てられた勢いで外野に出てしまった場合、ラインクロスとなり相手の内野ボールとなる。当てられた選手については、ボールを捕球していればセーフ、落とした場合はアウト。
- ・ ボールをキックした場合は反則。転がっているボールを足で止めるのは良い。
- ・ 首から上の部位にボールを当てた場合は反則となり、相手の内野ボールとなる。ただし、ヒットを避けるため故意に頭を出して当りに行った場合は、ヒット扱いとする。
- ・ ドリブルはゲーム全体で1回目は警告、2回目以降は反則とし、相手側の内野ボールから再開する。

4. その他

※《遅延行為》優位にあるチームの選手の遅延行為を禁止する。

- ・ ボールを持った選手がボールを投げようとしない。(5秒以上持っていて投げない)
- ・ 5秒以上のボールの保持はタイムキーパーが主審に伝える。
- ・ 遅延行為の判断は主審が行い、副審・線審は主審にアドバイスできる。

※ 外野の外ラインよりボールが外に出た場合、空中にあるボールが床に落ちる前に、外野内選手がキャッチできればそのまま続行できる。

※手袋の着用は認めない。

※プレーに支障が出る場合は、主審の判断で時計をとめることができる。

※線審は1人が旗を挙げたら他の線審も旗を挙げて合図する。

※試合終了合図は、選手の投球動作中はしない。投球後相手がボールを捕球、またはヒットして動作が止まった時点で合図する。

※競技場(フロアー)内は、監督・コーチ・選手のみ。

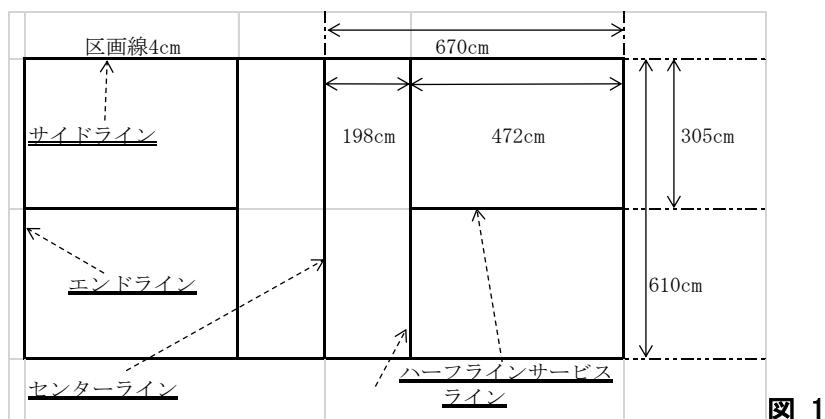
保護者等応援席は、観覧席最前列(1列目)を利用し、応援席は試合ごと入替制とする。

※試合コートは、年毎男女交代制とする。

ビーチボール競技規則 HAMAMATSU (H30年度)

1. コート・競技用具

- ・ バドミントン (ダブルス) コートを使用する。
 - ・ 支柱は、ビーチボール用又はバドミントン支柱を利用し、ネットの高さは、200cm。
 - ・ 支柱の両端 (外側) にアンテナを付ける。アンテナはネットの上に 80cm 以上、出るように取り付け、10cm 間隔に白と赤のしま模様を付ける。
 - ・ ボールは直径 27cm (±1cm)、重さ 70 g (±2 g) とする。

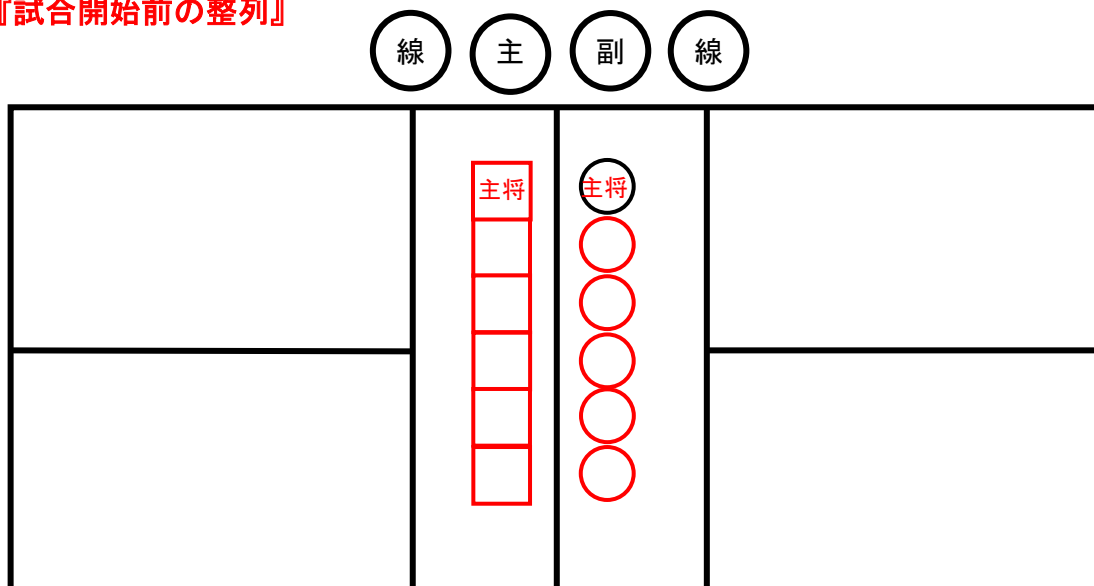


2. 主なルール

- ・ 登録は、1 チーム 6 名以内とする。
- ・ 1 試合 (ゲーム) は、9 点先取のラリーポイント制、ジュースなしで行う。
- ・ 9 点を獲得したチームをセットの勝者とし、2 セット獲得したチームを試合の勝者とする。
- ・ 予選リーグについて、両チームが 1 セットずつ獲得した場合は、引き分けとする。
- ・ 決勝トーナメント・交流戦について、両チーム 1 セットずつ獲得した場合、第 3 セットをタイブレーク方式で実施する。その場合、スコアを 5 対 5 から開始とする。

3. 競技の進め方

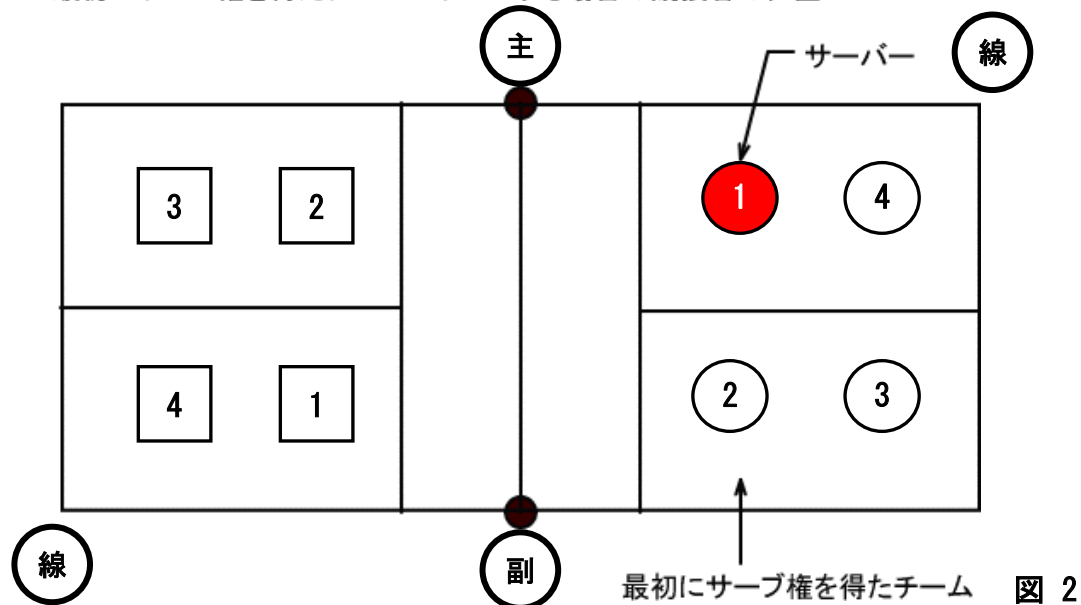
『試合開始前の整列』



① コート及びサーブ権

- ・ 整列はネットを挟んで審判団側から主将を先頭に並び、主審の合図で挨拶、握手をして、主将のジャンケンでサーブ権とコート権を選ぶかを決める。一方のチームがサーブ権を取った場合は、相手チームにコート権があたえられる。
- ・ コート権を得たチームは、どちらのコートで試合をするか主審に申し出る。コートの変更がある場合は、主審の合図で速やかに変更し、試合スタート位置に入る。（ネットを潜ってチェンジしてもよい）
- ・ **セットごとにコートは交換する。第2セット目の最初のサーブは、前セットでサーブ権を行使しなかったチームが行う。また、第3セット目のサーブ権は、ジャンケンで決定する。**
- ・ **第3セットの使用コートの選択権は、サーブ権がないチームにある。**
- ・ 副審は、サーブを行う際に守備側のサービスラインに位置し、サーブのイン・アウトを確認する。
- ・ 1セット目が終了し2セットのコートチェンジの際、サブメンバーは選手の列に加わらない。

最初にサーブ権を得たチームがサーブする場合の競技者の位置



最初にサーブ権を得たチーム 図 2

② セット開始時のプレイヤーの位置

- ・ サーブのとき、2チームの選手は、おのこのコート内に2人ずつ2列に位置する。
（プレイヤーの位置は、サービスラインより後方のコート内で基本田の字とする）
- ・ サーブが行われた時点で、各プレイヤーは味方コートのどこに動いても良い。
- ・ 選手はサーブを打つ瞬間には、コート内に入っていないなければならない。選手がサイドライン、ハーフライン、エンドライン及びセンターラインを踏んだり、踏み越えていたりした場合は反則となる。
- ・ ゼッケン番号にあわせて、図3のように並ぶ。したがって、ゼッケン番号①～④がスターティングメンバーになる。（男女関係なくポジションは自由）

《ポイント》

第1セットでサーブ権を得たチームがサーブをする時は、相手コート側の競技者の位置は、自分のチームと同じ位置にいます。

『試合開始時の選手配置』

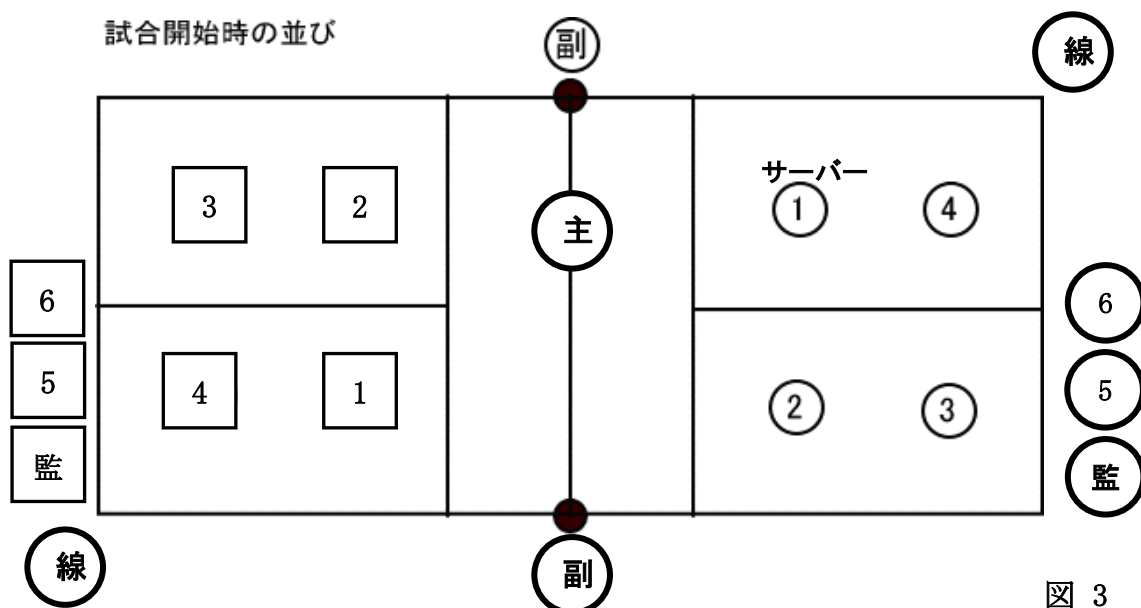


図 3

③ サーブ

- ・サーブは1本。前衛右の位置にあるプレーヤーがアンダーサーブで行う。
- ・サーブは、サーブ開始の笛後5秒以内に行う。サーブ時サーバーは、ネットに身体及び両足を並行に位置する。サーバー以外の選手の姿勢はこの限りではない。
- ・前方へ一歩の踏み出した範囲内でサーブを行わなければならない。サーブの瞬間、サーバーの両足の一部は床面にあること。

※ その他のサーブの反則

イ) 後方への踏み出し

ロ) ジャンピングサーブ (足の一部が床から離れる)

ハ) ランニングサーブ (前方へ2歩以上踏み出す)

ニ) サイドサーブ (体側からボール1個分以上離れる) *1回目は警告!

- ※ サーブトスの高さは、サーバーの肩より下で、トスボールに回転をかけてはいけない。主審の警告は、1試合1回(両チーム含めて)、2回目からは反則となる。

- ・主審の笛前にサーブを行った場合、そのサーブは取り消され改めてやり直す。
- ・サービスは、そのチームが主審によってサイドアウトを宣告されるまで、同一サーバーによって続行する。
- ・サーブ側、レシーブ側とも、サーブを打つまで足(下半身)を動かしてはいけない。動いた場合は反則となる。また、ラインを踏んでも良いが、踏み越えてはならない。
- ・レシーブ側は、サーブしてきたボールをアタックなどで攻撃してはいけない。ただし、レシーブしたボールが1打目で返った場合は例外とする。
- ・次のときは、サーブミスとなる(相手にサーブ権が移行、得点が入る)。
 - イ) サーブを空振りした場合。
 - ロ) ボールがネットにふれた場合。
 - ハ) ボールがアンテナ及びポールに触れた場合、又はアンテナ間を通過しない場合。
 - ニ) サーブインゾーン内にボールが落ちない場合。
 - ホ) サーブの打ち方に違反があった場合(ジャンピングサーブ、ランニングサーブ、サイドサーブなど)

【サーブミス図解】

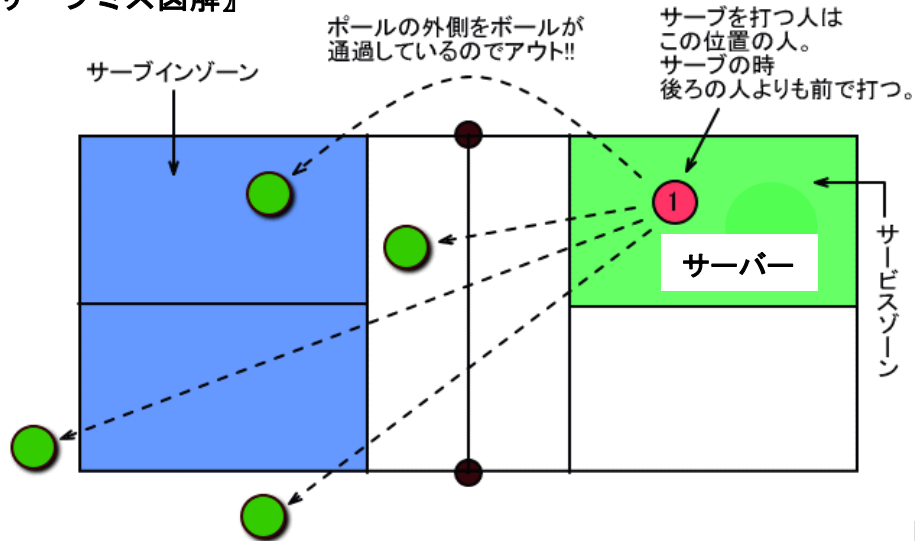


図 4

④ ローテーション

- ・サーブ権を得たチームは、直ちに時計回りで1つずつ移動する。
- ・第1セットでサーブ権を得なかったチームがサーブをする時は、相手コート側の競技者の位置は、自分のチームと1つずつ、ずれた位置にいる。

「ローテーション間違いの罰則」

- ・ サーブ側の間違い
1点減点し、サーブ権が移動。(0点の場合は減点なし。)
- ・ レシーブ側の間違い
1点減点。(相手チームに、得点加算はなし。)
- ・ 間違いが、どちらのチームかわからない時は、サーブ権のあるチームにあわせて、レシーブ側の位置をなおす。減点なし。

「2セット目以降のサーブの順番」

- ・ 次のセットの競技者の位置は、前のセットの終了時の位置とする。
- ・ セット終了時の整列はネットに向かって右前の位置にいた人を先頭に並ぶ。

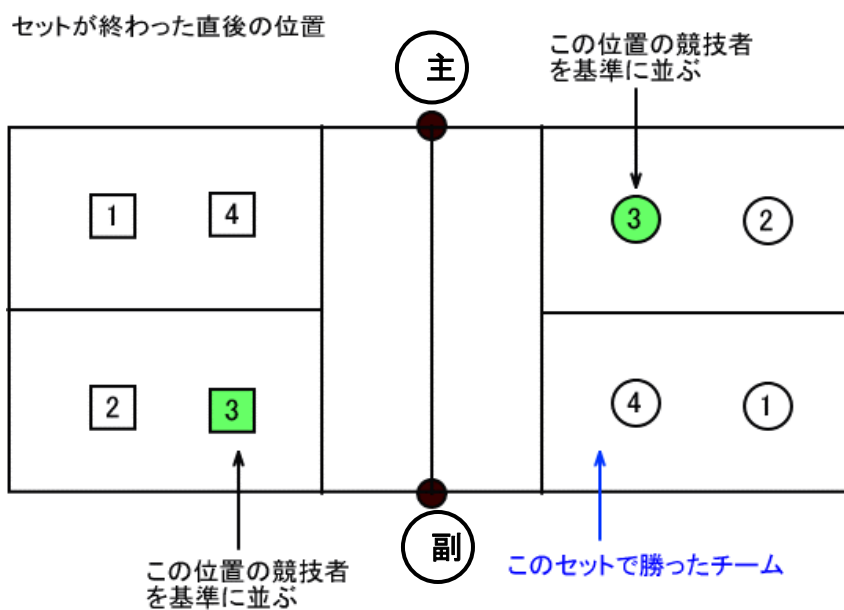


図 5

セットが終わった時の整列

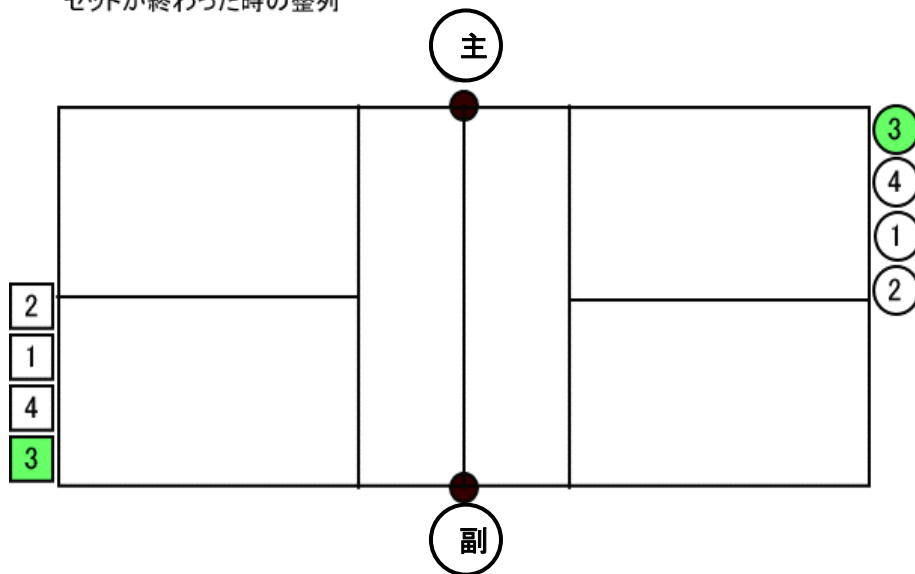


図 6

次のセットが始まる時の位置

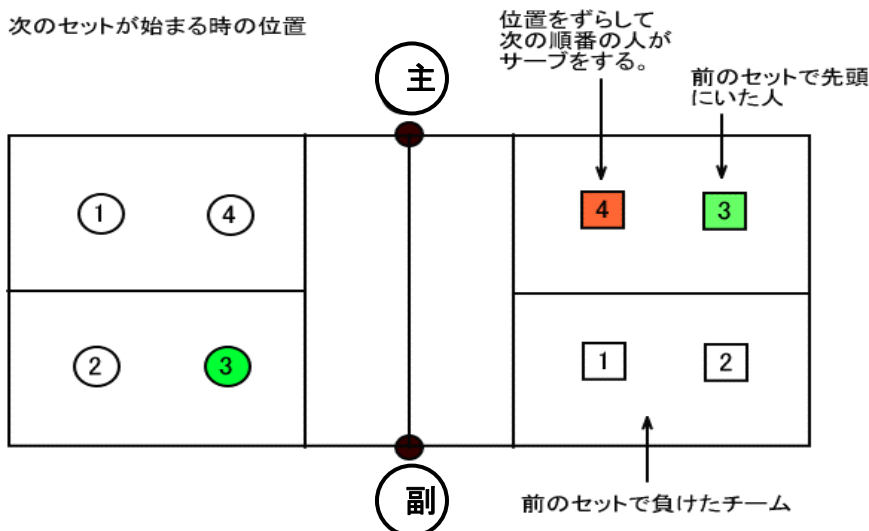


図 7

⑤ メンバーチェンジ

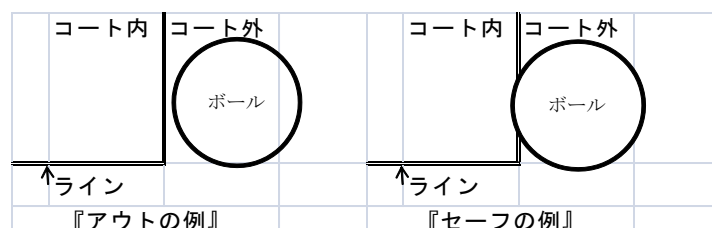
- ・メンバーチェンジは監督又は主将が、主審に申し出れば1セット内に2回まで自由に交代できる。ただし、5人のチームの場合は1回である。
- ・一度交代した選手はそのセット内では交代できない。
- ・サーブ続行中のサーバーの交代はできない。ただし、負傷等によりサーブの続行が不可能と主審が判断した場合はこの限りではない。
- ・2セット目の始めにメンバーチェンジをする場合は、1セット目の最終選手がコートに入り、守備位置について主審の確認が終わってから、交代を主審に申し出る。
- ・交替する選手は、交替した選手のポジションに入らなければならない。(サーブの順番を変更してはいけない。)
- ・競技者が負傷した場合は、すみやかに交替しなければなりません、そのセットで交替回数が終わっていると交替ができず、そのセットは負けとなる。

⑥ タイムアウト

- ・各チームは監督が主審に申し出ればセットごとに1回のタイムアウトができ、30秒以内とする。各セット間の競技停止時間は1分間とする。
- ・靴ひもの締めなおし、競技者が負傷した場合のタイムアウトは審判タイムとなるので、チームのタイムアウトの回数にはかぞえない。
- ・タイムアウト中プレーヤーはコートを離れたり、コート外の人と話しをすることは許されない。監督の助言を受けることはできる。監督はコート内には入れない。

⑦ アウト・オブ・バウンズ

- ・ボールがコート外の床面、物体に触れたとき。ただし、ボールの一部が想像延長線上のラインに掛っていれば、アウト・オブ・バウンズにならない。



⑧ ネット上のプレー

- ・相対する2人の競技者が同時にボールと触れた場合は、ボールが落下したチームの反対側のチームが最後に触れたものとする。したがって、ボールが入ったチームは3回プレーすることができる。
- ・相対する2人の競技者が同時に反則（ホールディング、タッチネット等）をした場合、ダブルファール（プレーのやり直し）になる。
- ・ブロックは、1回のプレーとみなす。

4. 反則

① オーバータイムス

- ・同一チーム、ボールを相手コートにかえす前に4回以上ボールをプレーしたとき。ただし、プレー中にボールがネットに触れたときは、5回以上

② ホールディング

- ・ウエストより上の身体の中の部分で打っても良いが静止することなく跳ね返さなければならない。ボールを受け止めたり、ボールが体の一部で静止したとき。

③ フットボール

- ・ボールがウエスト（腰）よりも下に当たったとき。

④ ドリブル

- ・同一競技者が続けてボールに触れたとき。
※1度触れた直後に、ボールがネットに触れた場合は、そのボールを同一競技者が触ってもドリブルにならない。

- ※ 身体の2ヶ所に同時に触れた場合は反則としない。静止状態(ホールディングは反則。)
- ※ 同じチームの2人以上の競技者が同時にボールに触れた場合は、1回のプレーとし、どちらが続けてプレーしてもドリブルにはならない。

⑤ タッチネット

- ・ 競技者がネット及びボールに触れたとき。

⑥ オーバーネット

- ・ 手などがネット上をこえて、相手のコートにあるボールに触れたとき。
- ※ 打点が自コート内であって、そのあとの流れで超えた場合は反則にならない。

⑦ インターフェア

- ・ ネットの下から、相手コートに体が出たとき。(センターラインは踏んでもかまわないが踏み越えてはいけない。)
- ・ 相手側のプレーを妨害していなければ反則にならない。

5. 確認事項

- ・ 試合前の練習は相手チームと一緒にやる。(各チーム1本)
- ・ セット間の水分補給は主審にその旨を伝えればよい。(タイムにはならない)
- ・ 捕球は、ウエスト(腰)から上の部分であれば、どこで打ってもかまわない。

上記以外の競技規則は、『日本ビーチボール協会ルールブック』に準ずる。